

## 令和4年度富山市民学習センター運営協議会 会議録

日 時 令和5年2月16日（木） 10:00～11:40

場 所 富山市民学習センター4階 講義室1

出席者 委員側

藤田公仁子、木本秀樹、上野幸夫、神谷和秀、布村昇、大島麻美、  
田中裕子、永田円了、犬島勉、高城喜代子、橘恵子、山本弘子

事務局側

砂田友和（教育委員会事務局長）、高橋祐子（生涯学習課長）、  
水上豊（市民学習センター所長）、寺島優子（市民学習センター次長）  
定塚奈々（主査）、松井琴美（主事）

藤田議長 議事の資料の説明を事務局にお願いします。

事務局 「令和4年度市民学習センター事業等について」説明

施設概要、事業概要、年間事業、市民大学開設事業、生涯学習の啓発事業、  
市民大学受講者の構成、市民大学受講者数等の推移、  
受講者アンケート集計結果

「令和5年度市民学習センター事業計画案について」の説明  
スケジュール、令和5年度富山市民大学の概略、  
2023 富山市民大学要項・学習日程

藤田議長 ありがとうございます。令和4年度、令和5年度、あわせてご説明いただきました。とても詳細な説明だったと思います。

さて、議事に入っていきたいと思います。説明がありました市民大学・市民学習センター事業について、ご意見・ご質問いろいろございますと思います。この場で伺いたいと思います。挙手をいただいてご発言いただければありがたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、布村委員さん、お願いいたします。

布村委員 コロナに加えまして、戦争が起こったり、それに伴う物価高になったりした中で、市民のニーズに基づいて、きちんとした講座を実施しておられ、しかもユニークな内容は学校がなく、事務局は努力しておられ、大変立派なことだと思います。その上で、2点、コースのことで要望、取り入れたらよいことをお話したいと思います。

前からお話ししているのですが、自然関係についてです。多様性が必要な生物や地学とは違いますが、地学あたりは随分充実していると思います。一方、物理・数学・科学というのは、実験が必要あるいは、皆さんが高校時代に痛い目があったとか、敬遠されますが、知識そのものよりも、物理的な物の見方が大事だと思いますし、いいものがあれば、潜在需要があると考えられます。身近なものを引き合いにして、説明できるような講座が開かれると新しいユニークな講座になると思っております。

もう一つは、国の文化財。文化庁が文化の活用を言っています。富山にもあまり知られてない文化財があって、市民の方もほとんど知らないと思います。有形・無形、天然記念物を含めて、いろいろあると思います。そういったものを紹介して、できれば現地で見ながら解説する、あるいは博物館の展示などを活用して学ぶということがあると、郷土の理解が深まると思います。ご検討願いたいなと思いました。よろしくお願ひします。

藤田議長 今、ご要望もいただきました。ジオパーク・地質関係の講座は、地域性もあるというところで、継続して実施されているということが推し量られます。しかし、物理等は、難しい面、難しいという印象が先立っています。その部分に対して、今後新しい講座の開発をというご要望というふうに思っております。

また、文化財につきましては、博物館や別のところが講座を開いていらっしゃると思いますので、そことどのように連携をとっていくのかということだと思います。住み分けという話もあると思いますが、この時代はコラボになるというところで、情報だけでも双方向で提供するとか、市民学習センターの受講者の皆様にご紹介できるというところで、一歩進んでいければ、新しい動きや新しいご意見が出てくるということで、何かきっかけがあればいいなというご発言でございました。今を見ながらのご意見だったと思っております。記録として残していただいて、今後検討いただくということでよろしいですか。

では、他にございますでしょうか。

永田委員 全体的なアンケートを理解できました。個々のコースのアンケートも取っていらっしゃると思います。それは、講師の手元には、いつていますか。

事務局 アンケートの表面はコースについてそれぞれ書いていただいています。講師の方から個別にご要望があればお渡ししています。

永田委員 コースの担当講師の方は、自分が展開したものに対して、フィードバックが直接ないということでしょうか。

事務局 はい。

永田委員 分かりました。あったほうがいいと思います。私も講師の一人ですが、知りたいです。受講者の方からどのような反応があったのか。これは、要望云々よりも自分がアウトプットしたものが、どのような伝わり方をしたのかを知り、講師も刷新されていきます。要望がなくても、講師の方に分かるようにしていただきたいという私の意見です。

高城委員 すいません。アンケートの結果を講師の先生が知りたいと同じように、一般の受講者には、どんな形でフィードバックされるのでしょうか。現在、一般の方は、書くだけで見る機会はありませんよね。

事務局 現在、公開はしていないものでございますが、おっしゃることはもったもでするので、今後ホームページに上げるなど、個別に検討して参りたいと考えております。

高城委員 よろしく申し上げます。

藤田議長 今、講師の先生からご要望をいただきましたが、フィードバックをすることにより、講師の方も学ぶ機会になっていきますので、双方向でという時代に入ってきたというところもありますので、可能であればご検討いただければと思います。私も主催している側のものもございますので、難しい、厳しいご意見が出てきた時にどこまでお伝えすればよいか、受講者の中にも、その厳しさに何か感情的なものが入っているご意見があるというふうに聞かれる方も、少数ですが、いらっしゃいます。どこまでお伝えしてよいかというところが悩みどころですが、それを含んだ上で、お伝えできる場があるといいと思います。センター職員のスタッフサイドと講師とのコミュニケーションも、それをきっかけにいただければということで、今後に向けてご検討願えればと思います。

事務局 1点だけ訂正させていただきます。先ほどアンケート結果につきまして、公開していないと申し上げましたが、運営協議会資料としまして、公開しておりますので、その中に含まれております。この点のみ訂正いたします。

藤田議長 当局が資料としての情報公開というところということがありますが、個別のというところのご意見だったと思いますので、ご意見をいただいたということで、ご検討願えればと思います。

それでは、他にございますでしょうか。

神谷委員 今、資料を公開されているという話で、ホームページを見ると、令和3年のものが掲載されていますが、その前のものは掲載されていません。直近のものだけが掲載されるという感じですか。継続して載せると、変化も分かるのでいいと思います。人数の経過は、グラフで載っているのですが、各講座がどんなものが過去にあったか、歴史みたいなものがあるといいと思います。

事務局 承知しました。検討したいと思います。

藤田議長 これは、富山市としてPRになります。こういう素晴らしいことを富山市は実施しているということをホームページでは、限りなく公開できるということも、力をつけていく上でもよいと思いますので、ご検討願えればと思います。

神谷委員 もう一つアンケートの中で、デジタル環境のお話がありました。最近は、オンラインでの会議も簡単にできるようになりつつあります。講座をオンラインで実施することを考えていたりしますか。実は、こういうことを考えているというのがあれば、教えていただきたいです。なければ、今しゃべったようなことを検討されると、旧富山市内の方が多いい話があったと思いますが、それ以外の方は、来づらいので、聞いてみたいという方は、スマホで、話が聞けるのはいいことだと思いました。

事務局 ご意見ありがとうございます。そういった可能性を探るために調査したものでございますが、今の時点では、コロナが落ち着いてきたこともありますので、基本的には対面で、この場で皆さん一緒に受けていただく方向で、今は進めたいと考えております。しかし、受講申込の手続き等の利便性は高めていきたいと考えておりますので、そういった手続きの方法のデジタル化を考えております。

藤田議長 文部科学省のほうでも、対面の講座をできないからオンラインにするという考え方ではないです。オンラインの講座はオンライン。対面は対面。オンラインの利用を考えながら、講座を実施していく。対面でないとできないことは対面で考えて、今回、無理やりオンラインに切り替えたところがある程度結果が出てきています。受講者も講師側も対面がいいよという形になってきているところもあるので、今後につきまして、with コロナの環境の中でどう行動を進めていくのかというところは、対面でというところは、対面の講座で実施するという

形でしていく流れです。ハイブリッドやオンデマンドというのは、その特異性というところの有効性があるのであればという考えにして、代替ではないということだけは、今後作っていきたいという話をしていますので、何でもかんでもオンラインという考え方や、オンラインが便利だということではなくて、学習内容に合わせるということになってきている。ただ、これもすべて Ing の考え方ですから、そういうところを注視して、今回、アンケートを取られるということは、富山市民のニーズというところが出てきていると思いますので、継続して捉えていくということが大切だと生涯学習専門者としましては考えているところがございます。この部分は、なかなか難しいです。ご意見をありがとうございました。

他にございますでしょうか。

永田委員 例えば、過去のいろんなものを見たいと思った場合、アーカイブを作り、クラウドに上げてみる。夢のような話ですが、可能になれば、現役の方、年齢の若い方も過去を見て、行ってみようと思うと思います。大変な作業だと思いますが、不可能ではない。カメラで撮り、クラウドに上げるもしくはハードディスクに落とすとか、アーカイブを作るというのも一つの手かだと思います。

事務局 ご意見ありがとうございます。いろんなところで、そういった取り組みをなさっていることも存じ上げておまして、検討をしたことがございますが、著作権やいろいろ問題が出てくるかと思えますし、講師の方のご了承等、ご相談も必要になってくると思います。こちらの講義としましては、まずは対面の講義を中心に進めますけれども、ご提案いただいた内容も検討しながら、今後、進めて参りたいと考えております。

藤田議長 私は、別の自治体の方のオンデマンド部分をお手伝いさせていただいていますが、著作権と肖像権の問題が大変です。受講者さんの顔が1人でも入れば大変なことになりますし、講師さんの資料は、著作権法で相当大きな問題を抱えてるというところでもあります。配信する場合は、担当専門職員1人を配置するなり、全部チェックしなければなりませんので、その作業量を誰がやるのかというところなんです。それがクリアできたら、できると思っております。今、そういうことを考えないで、配信している自治体さんは、今後対策が必要になると思います。ある程度知った上で、やっていかなければならない。急に、オンデマンドが進みましたが、今後、いろいろ問題点が出てくるというふうに考えております。夢のような話ということですね。できればいいなというところは、そこはもう、誰もが願うばかりかなと思います。

他にございますでしょうか。

上野委員 毎年、受講者のアンケートを見ますと、満足度の高い、素晴らしいという思いがしております。資料5ページのコース別の定員数・修了者数のところを見ると、「郷土の歴史」「日本の歴史」「中国史に学ぶ」等の歴史系が定員数に対して、受講者数がすれすれである。あと、「落語のはなし」、料理系。それらに対して、24ページに記載されていますが、多くの人が受講したいと思うコースは、定員増にする対応をされており、大変素晴らしいと思います。そういう人気のあるコースがいろいろありますというのは、特徴だと思います。受講者の特徴を広報誌で少し上げられたら、よりそこに飛びつく人も多くなると感じております。

あと、プラネットのものづくり。最初から関わって、完成する達成感があるものが結構人気があります。「土人形」「日本画」「銀粘土アクセサリー」等。今、テレビで絵を書いたり、俳句を読んだり、これもテレビの影響が大きいと思います。受講者数が多いですし、満足度や雰囲気もよく、このままやっていたらいいと思います。

藤田議長 資料をご覧いただいてのご意見だったと考えております。ものづくりというところ、ここに対しては、本当は物を作るだけではなくて、その間に受講者同士がコミュニケーションや学習縁などのネットワークができればよいですが、今回のアンケートの特徴として、受講者同士の繋がりといったことが薄くなっているという面が出てきているというのが、とても残念だと思います。上野委員さん、ものづくり現場というのは、受講者同士の会話は結構ありましたか。

上野委員 そうですね。お互い方向性が一緒で、会話は必要不可欠ですし、対話しながら作っていく楽しみというのでは、マスクをして会話は減ってきている。これは、教育現場でもそうです。あと、先ほど言い忘れましたので、言わせていただきます。アンケート結果で、年齢層が高くなってきているというのは、若い層、特に60代へのPR、楽しいことを広報する必要がある。このまま一緒に上に上がってくると平均年齢が80代になる。見ていて思ったことは、「100歳まで歩こう」というコースが結構人気で、これも時代だと思います。自分も元気に100歳までいたいという気持ちがある方が多いということです。なかなか面白いコースです。受講者数は、定員をオーバーしていて、最終的に修了者数は22人になっていますが、特徴があるコースだと見ていて思いました。

藤田議長 ありがとうございます。受講者さん同士が、お互い励まし合いながらまた楽しいとか会話があって作っていくとよいと思いますが、先ほど言った調理の講座

につきましても、持ち帰りとのことでした。ですから、作った後、一緒に食べての会話ができません。それでも作るというところを実施していくという前向きなところではあります。with コロナの環境でどう進めていくのか、また受講者さんが、ここに行ったらあの人に会える、お互い会話ができるというところを楽しみに来られている方もいらっしゃるかなと思うので、今後どうしていくか、このままがいいのかを考え、工夫が必要などころでございます。実際、受講者さんの様子を見ていて工夫されているところもあると思いますが、田中委員さんいかがですか。

田中委員　私は、「リズム体操」コースの講師ですが、皆様のご尽力のおかげで、大学祭においては3年ぶりにステージ発表させていただきました。ステージで、日頃やっているリズム体操を発表するだけのことですが、会場の中には大変盛り上げ上手な方もおられまして、拍手がどんどん広がって行って、ステージ上で、会場全体が一体になるような素晴らしい感覚を味わわせていただきました。ステージに出て、発表した受講者の方は、達成感・満足感、そして来年への励みのようなそういう気持ちの音がすごく溢れて、みんなで感動しました。また、上から見ていて、その拍手をしている方たちの幸せそうな顔。なんかこの後何か始めるようなわくわく感も感じることができました。上手く表現できませんが、そういう一生懸命頑張っている姿が、他の人の心を動かして、目には見えないですが、いいものがたくさん広がっていった瞬間ではないかと思い、そういうことがきっかけとなって、何かを始める方が本当にあの中から1人でも出ていただけたら嬉しいですし、リズム体操を来年継続する、また新しいことにチャレンジする勇気に繋がっていけばいいなと感じた大学祭でした。マンネリ化ということが、アンケート結果にありまして、講師の立場としましては、お伝えしたことが実際にできているかという、もう少し頑張ってもらいたい、もう少しお伝えしたいということもございます。大変お伝えしたいことはシンプルですが、マンネリ化にならないように、工夫を凝らしながら、市民の皆さんに喜んでいただける講座になるように、これからも努力していきたいと思っております。ありがとうございます。

藤田議長　とてもなんかわくわく感が伝わってくるという点でした。本当に受講者の皆さんは、待ってましたみたいな感じだったと思います。今年は、どこもそうです。対面ができるようになったところで、一つだけまだできないのは、合唱でございます。この部分は、難しいです。本学の合唱も、今控えております。よく言われるのが、NHKはマスクしながら復活しています。NHKの合唱コンクールのことを言われますが、年齢的なものを考えていきますから、まだ難し

いところもございます。しかし、その中でも「リズム体操」は、体を動かすということもありますし、今後もマンネリではないと思います。受講者の皆さんは、今学び、次の学びを得るという生涯発達していくという力を持っていらっしゃいます。マンネリというよりはどんどん進んでいただければよいと思っております。ありがとうございます。

大島委員さんいかがですか。

大島委員 私は、「日本画」で、今のデジタル化とは逆で、アナログのようにコツコツと手作業する講座ですが、皆さん、作品が完成されるまでコツコツとやられます。1度県展に来られた芸大の先生が、県展の場で、日本画の絵の具の溶き方を実践されたことがあって、それを携帯で撮り、芸大の先生にも許可を取って、それを1回だけテレビに繋いで映したことがあります。そういうデジタルの使い方や、あと募集の時でもホームページをワンクリックすると、一部だけ例えば、日本画だとこんな道具で、こんなふうに使えます。全部ではなく、一部を見せて、こういうことをしていますというのがわかれば、受講者の皆さんも分かる。日本画は、水彩画と間違われ、簡単にできると思われて来られて、大変だったと思われる。しかし、色が綺麗で楽しいですと言われる方もおられますが、そういう使い方もできると思いました。対面でどうしますこうしますと話しておられる受講者の皆さんは、次は使えたらこれというふうに行かれるので、対面も悪くないですし、デジタルもそういう使い方ができたら、若い方もなんかの拍子でクリックされるかもしれないと思いました。

藤田議長 デジタルも使しようというところですよ。講座の中でどのように使っていくか。情報として何があるのかということも必要になってくる時代に入ってきたというところですよ。どういうふうに使っていくかというのは、私たちも大変見どころがありますが、有効活用していくという技を持つことも必要です。ご意見ありがとうございました。

それでは、山本委員さんいかがですか。

山本委員 コロナ禍の中でも、市民学習センターの方々が努力されて、コロナ前のように講座の方も充実して下さって、本当にありがたいなと思っております。私自身も数えてみたら、7年ぐらい受講させていただいていると思います。今までの受講のコースは、最初は「料理」を習って、「豊かな心」、「江戸の文学を読む」。いくつか講座受けさせていただきましたが、自分自身が受講者の立場で考えたときに、市の広報や受講手続きの時になるとこの冊子（要項・学習日程）があたりますから、これを見ながら年間どんなような講義をされるのかを見させていた



できます。自分の今までの学びの経験で、書いてあるもので理解できるものもあれば、一体どんな内容なのか、この冊子だけでは分かりません。来年度の講師の先生が講座を通して、どんなことを受講者にお伝えしようと思っていられるかを概要的なものがどこかにあると、学習テーマだけでなく、また新たな他の講座も受けてみたいという気持ちも、湧いてきます。年度の終わりに「学報」を作っていられると思いますが、「学報」には、講師の先生の今年度の講座のことについて、振り返りやこんな知識を皆さんにお伝えしてきたというなことを書かれていると思います。「学報」は、一般の方々が見る機会がなく、昔は販売されていたような気がします、知らない皆さん、手に取らないと思います。講座の時に、後ろに置いてくださって、皆さん見る機会をいただけたらとか、何かその情報を収集する立場の受講者へ提供していただけたらと思います。中には、講座を受けてないが、ちょっと面白いから受けたいというものも時々あります。聴講したいという希望に応じるような機会があれば嬉しいと思いますが、物理的な面とかいろいろあると思います。

あと、アンケートの中で基礎的なものを学びたいというのは、50%近くなってきたと思いますが、令和5年度でそういう要望に応えるような講座があるか、聞かせていただければありがたいと思います。以上です。

事務局 ご意見ありがとうございます。いただきましたご意見のうち、最初の意見はコースの講座の詳細がもう少しわかるものがあればということで、確かにおっしゃるとおり「学報」等販売しているということもあって、なかなか手に取っていただけないのですが、今年そこまではないですが、要項・学習日程の冊子で、改善したところがございます。4～6ページにコース一覧を掲載していますが、今まで内容という欄がなかったものを今年度は追加しました。2行程度でございますが、昨年までなかったものをこういうふうに入れまして、今回本当に簡単なものでございますが、雰囲気だけでもつかんでいただけるかなと思ひまして、今年度からそういったものを追加して改善をいたしました。もう少し詳しいものだということになればもちろん「学報」等ご覧いただく必要もありませんが、まず一歩ということで、ご了承いただければと思っております。

二つ目、興味を持たれた講座の聴講等につきましては、ごく一部ではございますが、皆さんに聞いていただきたいものを例えば公開講座にしましたり、その年の中でピックアップしまして、1月から2月の特別講義におきまして、講義していただいたり、そういった機会を設けております。今後そういった形でしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

最後の基礎的なものがどれかというのは、連続講座になりますとその中で、難しい日もあれば、基礎的な日もあれば、混ざっていたりしますので、どのコ

ースが基礎的であるということは、こちらでも明確に申し上げられませんが、ご要望に応えることができるかということも今後、検討していけたら、本当はいいかなと思っております。今後の参考とさせていただきたいと思っております。

藤田議長 たゆまぬ努力をスタッフの皆様をお願いしたいと思っております。本当に貴重なご意見ありがとうございました。

橘委員さん、いかがでしょうか。

橘委員 先ほどからアンケート結果報告の皆さんの意見をなるほどと思いながら、お聞きしていました。市民大学は、社会的にも他県に勝る大切な組織であるということもいつも思っています。高齢化が進んでいるこの頃の高齢者の定期的な場所ということもあるし、健康にも繋がっていると思います。だから、これをできるだけコースも大分少なくなっていますが、少なくしてほしくないという希望があります。私は、受講者として思っていることは、以前にあった「庭木の剪定」や「花と緑」とか実技を伴っている講座があれば、高齢者の方は参加しやすいのではないかとこの考えもあります。そういうのを復活させていただくことはできるのかという思いと、先ほどから皆さん仰っていましたが、新規のコースを増やしていただきたい。実際、私は10年以上受講していますが、マンネリ化というか自分の受けたいコースは大体受けてしまって、受講申込の時に、次何を受けようか悩んでいます。好きなコースは、2回3回受けています。少し何か新しいものがあつたら、これがまだまだ続けられると思ひ、それをお願いしたいと思ひます。そうしていただければ、受講者も増えると思ひます。

もう一つ、アンケートにもありましたが、9時半からの開始ですが、ほとんどの人がちょうどいいと言っておられますが、一定数の方は、少し、遅くしてほしいという意見があるので、次年度からもアンケートにこの項目は取り入れたいと書いてありましたが、もう少し考慮して、10時に一度試しにさせていただけたらということも思っています。

あと、曜日ですが、個人的に水曜日は都合の悪い曜日なので、水曜日コースはずっと変わらないので、曜日のローテーションもさせていただけたらという思いがあります。その上で、新しいコースと時間や曜日の見直しをしていただけたら、もっと受講者が増えるという思いでいます。以上です。

事務局 貴重なご意見ありがとうございました。10年以上受けてくださっているということで、本当にありがたいと思っております。

コースにつきまして、おっしゃっていただいたコースの「花と緑」そういったコースにつきまして、以前あったものは講師の方のご都合が悪く中止せざるを

えなかったと聞いております。その後、なかなか次の講師の方が見つからず、今に至っているわけです。そういったことも含めまして、新規コースにつきましても今後検討して参りたいと考えております。

開始時刻につきましては、昨年も意見があったと思いますので、こちらのアンケートで受講者さんのご希望をとったものです。一方では、今の時間がいいと思っただけの方が大多数ですが、おっしゃられる10時というものも一度検討いたしました。10時から開始し、終わりが12時ということになりますと、午後講座の開始時刻を遅らせざるをえないところもあり、そういったご意見も今後、考慮していきたいと考えております。

あと、曜日のローテーションにつきましても、おっしゃられるとおり、以前にもご意見いただいたものだと思っております。こちらをお願いしている講師の方のご予定等があり、なかなか動かしづらいところがございます。ただ皆さんがおっしゃられるとおり、そういったことで活性化にも繋がる可能性もございますので、それも含めて、6年度以降の講座を検討するときに、検討させていただきたいと考えております。

藤田議長 本日に貴重なご意見ありがとうございました。時間につきましても、いろいろご要望が出てくるというのは、今後についての参考になるかなというところと、市の方で難しいといったところに、本学の講座をここに持って来ればニーズが広がるのかとしたかなことを私の中で思っておりました。運営していく上で、時間だとか難しい部分もあるところですが、要望は聞いていく、そしてそこを検討していくということの繰り返しは大切だと思っております。

それでは、犬島委員、いかがでしょうか。講師サイド、運営サイド、受講者サイドとして、いろいろご意見もあったと思います。

犬島委員 私は、今回で2度目か3度目のこの会議に出席させております。うかつなことに私自身が会議の重要性に気づくことが遅れました。受講者にとって、自分の希望といいましようか、こうして欲しいという希望が反映できるいい場だということをつい最近わかりました。どうして分かったかという、昨年の議事録がオープンになっています。実は、仲間からメールがまいりました。この中にお前の名前に似た名前があるが、お前かというメールがまいりました。議事録をお作りになるには、大変な苦勞されていると思います。しかし、議事録があるということが皆さんに行き渡ってない。私自身も知りませんでした。

ついでですから、お願いがございます。今日、いいなと思う意見がたくさん出ています。この意見は、どうこの後の市民大学の運営に活かされていくのかというのが、大事だと思います。それは、この協議会が役割を果たしていく一つ

だと思います。というのは前置きでして、今日、二つお話したいと思参りました。

一つ目は、大学祭の準備のとき、要項の15ページにある木下先生と偶然お話しする機会がございました。準備の時、木下先生がいらっしゃって、資料をお出しになって、自分で冊子を作られました。伺うと、「講義の時に受講者が作った短歌を最後に皆さんに配れるように冊子を作っています」と話をされました。それを私の目の前で、お作りになられ、パネルの前にその1冊を置いてくれました。これが実物ですと皆に見ていただきたいという話をされました。私は、感心しました。今の世代に育った先生は、見事に活用されているとてもいい例だったと思います。さっきマンネリという話がありましたが、少しは講師の先生方も若い世代にバトンタッチをしていただく必要があると思います。去年も同じこと言いましたが、それが一つ目です。

二つ目は、受講者が増える手だてを講じないといけない段階を迎えていると思います。一覧表を見ていただいたら分かるように、定員を超えるコースもございます。一方では、そうでないコースもございます。定員を超えているコースを例えば、月曜日にやっているものをもう一つ同じコースで、先ほど曜日の話もありましたが、ある曜日だと出られないけど、曜日を変えたら出られるという方も当然おいでになると思いますので、人気のあるコースを複数回、曜日を変えてやっていただくことができないかという提案でございます。そうすれば少しでも、受講者を増やすことに繋がると思いますので、今日お話をさせていただきます。以上です。

事務局     ご意見ありがとうございました。講師の世代交代といえますかそういったご意見は昨年もいただいていたものになります。講師の方も年齢だけでは図れないと思っております、ご参考として聞かせていただきたいと思います。

二つ目の曜日を変えてもう一度というのは素晴らしいご提案ありがとうございます。こちらにつきましては、応えてくださる講師の方がいらっしゃるか、そういったことも含めて、検討の一つさせていただきたいと考えております。

藤田議長     貴重なご意見ありがとうございました。受講して、これだということ、こうしようというところで、なかなかこの難しい問題を抱えつつ、やはり継続は力なりというところもありますので、そこにマンネリという言葉も存在していて、悩みはありますが、一つ解決策とすればこのアンケート、受講者さんの声、また講師さんのいろいろ考えておられるところ、どういう形で双方向性を生かしながら、コミュニケーションをとっていくかというところが、スタッフの皆様のご事情もあるかなというふうに思いつつというところ。大変な作業と思

いますが、ご意見が出ている以上は、ご検討いただければと思います。

本当にいろいろなご意見を出していただきありがとうございます。今までのところの総まとめといたしまして、木本委員お願いできますでしょうか。

木本委員　まとめることはできませんので、私の意見を二つばかり申し上げたいと思います。今までも出てきておりましたが、受講者の方々に対する入口の大切さみたいなものは、大事だといつも思っております。先ほど事務局の方から、次年度の要項の内容を一覧にしたと説明されておられました。初めてのことだということでしたが、こういったようなことの第一歩だと思います。私は講師という立場で、自分の反省を込めて申しますと、初回のコースの第1回目は大事だといつも思っております。そういったところで、きちんとコースのあり方、ガイダンス、いろいろなことを受講者の皆さんに働きかけるということは、反省として大切だと思っております。

それと各コースにコース委員の方がいらっしゃるかと思います。講師と一般の受講者の皆さんとの間を取り持つコース委員の存在は大事だと思います。コミュニケーターを果たす方々だと思っております。コース委員の方と各コースとの関係性みたいなものもこれから私自身が大事にしていきたいと思っております。

それから、去年も申し上げましたが、ホームページです。初めて行こう、やってみようと思った時、ホームページを見ていただくという、流れになっていると思います。これは、全体のシステム問題でもあるかと思いますが、すぐにはなかなか難しいかと思いますが、日常の何かさりげない活動が常に上がっているというのは、初め取り掛かる人にとってはいいと思っております。こういったことが1つでございます。

それから、少し自分も関わっておりますが、今のスマート社会における生涯学習のあり方というようなことをよく盛んに言われます。私の立場のものがそんなにいう問題ではないのかもしれませんが、その中に社会人の学びの推進ということで、リカレント教育の方が強調されていると思います。これもすぐに実施していくことは、難しいことかもしれませんが、先ほど永田委員さんもおっしゃったようなことで関係するかと思います。こういったことを進めようと思しますと、曜日の問題とかいろいろなものにもやっぱり関わってくるかと思いますが、これはぜひ今後の方向性として一つ、意に留めておくべきものと思っております。そういう意味で、先ほどから人と人との関わりの場が話題になりましたが、私も語り場、あるいはたまり場とかそういったものがあれば必ず活性化するといつも思っております。そういう意味でのいろんな質問の機会、受講者相互の交流とか、そういったような事柄に先ほどのコース委員の方と講

師が積極的にやっていく必要があると思っております。それは、反省も含めて申し上げましたが、今後考え方として一つ持っていくことも必要と思います。ただ、残念ながらこういったいろんな提案が出てすぐにコロナに入りましたから、どうしてもこう停滞する部分もあるかとは思いますが、自分自身心していきたいなというふうに思っております。以上です。

藤田議長　ありがとうございます。私も思うこともありまして、個人的な発言を許していただけるのであれば、こんな素晴らしいことを実施されてきているから、もっと富山県内の方々に知っていただければ良い刺激になると思います。生涯学習の現場で、富山県の方で、2つの区に分けて広域の連絡協議会というところで、上野委員さんご出席なさっていますし、県立大学さんも出られていると思いますが、そういう場で市民大学のことをアピールされたらいいと思います。この内容につきましては、一言も出てこないです。ですから、こういうふうを実施していますというところで、数字的なものもありますが、こうやって工夫して45年続けてきていますということだけでもおっしゃっていただきますと、県内の生涯学習を担当している教育委員会さん、担当者、生涯学習担当課とかもっと見ると思います。そうすると、県全体のレベルが上がっていくと思います。そういう場所のアピールといいますか、どんどんしていただけたらいいと思います。先頭切って走っていただきたいというふうに願うところです。そういうふうに思いませんか。上野委員さん。

上野委員　そうですね。

藤田議長　富山市さんの発言はいつも一番少ないです。ですから、発言いただきたいと願うわけでございます。ちょっと個人的な意見で失礼いたしました。それでは、一巡といいますか、全員にご発言いただきましたが、他にご質問・ご意見ございませんでしょうか。年に1回ですので、ありましたら受け付けたいと思います。今、3人挙がりましたが、高城委員さん、永田委員、布村委員さんの順番でお願いいたします。

高城委員　質問ですが、定員に大きく満たないコースがそのまま残っているのは、なぜでしょうか。

あと、新規のコースができないのはなぜかということと、要項のところに、マスクの着用について書いてありますが、これはどうなるのでしょうか。三つの質問です。

事務局 ご意見ありがとうございます。まず、定員に満たないコース、新規コースがないことにつきましては、今コロナ前と大きく違いますが、少しずつ復旧をしている段階でございます、合唱も見送っているような段階でございます。今後、定員に満たないコースももう1年様子を見てということも考えております。新規コースも検討しておりますが、まずは復旧していくことを先に進めて参りたいと思ひまして、来年度は大きな変更はなくさせていただいた次第です。

マスク着用につきましては、この要項は1月に発注しましたので、かなり厳しい形にしております。当初5月ぐらいにという話もあったところですが、来月から個人の判断でという話も出ております。ただし、こういった高齢者が多い施設ですとか、事業者の判断で、マスク着用をお願いすることも許容されるという方針も出ております。こちらは平均年齢73歳ということも考慮しまして、実際に講座を開始する前の感染状況等も見ながら、また周知をさせていただきたいと考えておりますので、お願いいたします。

永田委員 市民大学をこれからもずっとこのような形で継続していくためには、もちろん新しい受講者を発掘するというのも大事です。それと同時にリピーターをきちんとケアしていくといひますか、もう1回受けたい、3度受けたい、そういう岩盤のような方をしっかりケアしていく。そういうのがあったらと思ひます。例えば17ページのアンケートの自由記述がありますが、13番目の「同コースの再受講について」。一番下部分の「講義内容が異なれば再度受講したい。」、「同じ内容ならば、来年は受講しない」。これは、理解できます。質問です。同じものをすれば当然、同じだったら受けないということになります。そういう方針でいくのか、毎回新しいものを提供していただく方針でいくのか、お聞きしたいと思ひ、発言しました。

事務局 ありがとうございます。おっしゃるとおりコースの再受講について、アンケートにとりましたが、リピーターももちろん大事にしたいと思ひておひまして、同じコースを受けられる方のためには、同じコースであっても、若干内容をブラッシュアップしていくといひますか、中身を変更したりとかそういったこともやはりお願いをしたいと思ひておひます。あと例えば、複数講師がいらっしやる講座でありましたら、若干講師の方を入れ替えたり、そういったこともしておひますし、「暮らしの実学」等も他のコースがあつているかなということでもチェンジをしたりしました。そういった工夫もしておひます。そういったことで少しずつ変えながら、なるべく新鮮に思ひていただいて、例えば同じコースであっても受講をしていただきたいと思ひておひますし、そう言いながら全く全部入れ替えていただきたいと申し上げるわけではなく、その講座の雰囲気がお

きで、内容が好きでもう1回受けたいと思っていられしやる方もいられしやるので、そういった方も大事にしていきたいと思っております。お答えになるか分かりませんが、その中間といいますか、考えている次第でございます。

藤田議長 講師の方の工夫というところでも必要な部分なので、こういう受講者さんがおられます、リピーターが何名だとか、情報が講師の先生に渡っていくと、講師の方も工夫されていくというところもでございますので、今後、たゆまぬ努力を続けていただければと思っております。それでは、布村委員さんお願いいたします。

布村委員 先ほど言われたことですが、合唱コースがなく寂しいと思いましたが、当初、クラスターが出ましたから、すごく敏感になっていると思いますが、今、各学校も一般歌唱もほとんど復活している。県の合唱協会もいろんなコンクール、イベント全部復活しています。全国的にもそうだと思います。合唱協会も基準を作ったり、合唱のマスクを推奨したりしている。同じような声だったら、剣道はすごい大きな声をだします。剣道も剣道用のマスクを開発しております。それが合唱用としても使える。合唱でも合唱用を作っておりますので、運営方法、道具とかもう少し検討されて、何とか復活できると思います。他はどうしているのかということを含めて、ぜひ復活されたらいいというご意見です。

もう1点は、マスコミの活用です。いろんなことをやっている活動をマスコミに流す。定例的に流すのではなくて、いろんな動きがあったというものです。こうしましたとか、こんなのありましたよ、絶えず流す。そういうことは、必要なこと。いろんなところの団体にでて、PRするということがいい。それによって、参加者がやる気が出てきたり、新しいものが出てきたり、そういうこともあるので、絶えずマスコミに流れるようにしたほうがいいと思いました。

藤田議長 貴重なご意見ありがとうございます。合唱につきましては、年齢層の問題とかいろんなものも抱えておりますので、慎重にご検討いただきたいと思います。ちなみに、本学も今、年齢層が高いものですから、二の足踏んでおります。難しいことです。高齢者に関しましては、私、シニア層という言葉を使いたいのですが、命というものは折り合いが付きません。ですから、なかなか難しいと思っております。今、卒業式につきましても中高小学校マスクなしが出てますが、先日放送大学さんの方の卒業式では、マスク着用を判断せざるをえないと。それは、年齢層の問題があるという話をしておりましたので、慎重な現場のご検討をというところなんです。ただご意見は参考にさせていただければということで、今剣道とかいろいろ出てまいりました。私もあるのかと思いつつ、調べてみよう



思います。

布村委員　いろいろ出ています。

藤田議長　本当に貴重なご意見ありがとうございました。それでは、時間の方も1時間半過ぎたところです。本当に貴重なご意見、率直なご意見をいただいたと思っております。今後もこの場に限らずお気づきのことがありましたら、その都度ご意見反映できるように、事務局の方にご連絡いただければという方向でいいかなというふうに思っております。それでは、本当に今年度素晴らしい結果を出していただきました。見返して、この結果をこれ以上に繋いでいくということで、この委員会を閉じたいと思います。議事の方を終了させていただいてよろしいでしょうか。それでは、議事を終了させていただきます。ありがとうございました。

水上所長　閉会あいさつ

閉会